

## 基準4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

**観点4-1-①：** 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、公表、周知されているか。

#### 【観点到係る状況】

本学の教育目的と学科の教育目標に基づき定められた、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を、『募集要項』（別冊資料B）、および本学ホームページ（<http://www.gifu-cwc.ac.jp/nyushi/21gaiyou.htm>）に示して、本学が求める学生像を公表している。なお、平成20年度の学則改正を受けて、平成22年度募集要項ではアドミッション・ポリシーを、基準1で既出の別添資料1-1-①-2のとおり、従来の表現から変更している。

入学者選抜の方法は、『募集要項』（別冊資料B）に出願の資格、選抜の方法、推薦の条件等を記載して受験生に周知している。募集要項は、岐阜県内の公立・私立全ての高等学校（82校）、および過去5年間の志願実績のある県外の高等学校（414校）に郵送しているほか、平成20年度の例でいえば、オープンキャンパス参加者（610名）や業者主催の進学ガイダンス（7月以降4回：75名参加）、高等学校における大学説明会（7月以降4校：75名参加）、随時実施している本学教員の高等学校進路担当者訪問等の機会に配布・説明を行っている。それ以外でも志願者等からの電話・メールによる問い合わせに答え、また資料請求に対しては送付を行っている。

#### 【分析結果とその根拠理由】

本学では、大学及び学科・専攻ごとの教育目的に沿ってアドミッション・ポリシーを定めるとともに、それに基づく選抜方針を学科ごとに定め、出願資格や8通りの選抜方法等を『募集要項』に記載している。それらは、496校の高等学校へ郵送しているほか、約550名の受験志望者に配布・説明されている。また、『募集要項』と同内容を本学ホームページ（<http://www.gifu-cwc.ac.jp/nyushi/22youkou.htm>）に掲載して公開している。以上のように、アドミッション・ポリシーを明確に定めるとともに、その内容を『募集要項』やホームページを通して広く公表し、大学説明会、オープンキャンパス等でも周知を計っている。

**観点4-2-①：** 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実質的に機能しているか。

#### 【観点到係る状況】

本学では、上記のアドミッション・ポリシーに沿い、学生の受入れ方法として、「一般入学試験」と「特別選抜試験」を実施している。「一般選抜試験」は「大学入試センター利用の入学試験」（以下「センター入試」と略記）と、「本学独自入学試験」（以下「独自入試」と略記）の2種の選抜方法からなり、「特別選抜試験」は「推薦入学試験」「推薦入学試験（専門高校）」「AO入学試験」（「アドミッション・オフィス入学試験」、以下「AO入試」と略記）「社会人入学試験」「帰国子女入学試験」「留学生入学試験」の6種の選抜方法からなる。

「センター入試」の選抜方法は、上記『募集要項』（別冊資料B）5～7頁に記すとおり実施している。試験の点数配分や受験科目は、学科ごとのアドミッション・ポリシーに基づいて決定されている。例えば英語英文学科では、「国語」（漢文を除く）と「英語」（リスニングを含む）の2教科2科目に、高等学校における成績を加え

た総合力で合否を判定している。

「独自入試」の選抜方法も、上記『募集要項』（別冊資料B）8～10頁に記すとおりである。

「特別選抜試験」のうち「推薦入学試験」においては、各学科の推薦条件を『募集要項』（別冊資料B）11頁に記している。本学の「推薦入学試験」は地域や高校を限定せずに全国公募であり、小論文、面接、出願書類（調査書、推薦書及び志望理由書）により行っている。特に（2）小論文及び（3）面接については、各学科がアドミッション・ポリシーに基づいた独自の方法を工夫して採用している。

また、生活デザイン学科の場合には「推薦入学試験（専門高校）」を実施し、専門分野について高校時代から関心と能力を持っている学生を選抜している。

「特別選抜試験」のうち「AO入試」は、英語英文学科（平成20年度以降）と生活デザイン学科（平成17年度以降）が実施しており、それぞれ出願資格を定めて選抜を行っている。また、平成22年度より国際文化学科でも実施することとしている（別添資料4-2-①-1）。

過去5年間の志願倍率の平均は「平均入学定員充足率計算表」に示すとおり、2.23倍から3.81倍となっている。入試区分別の志願倍率（志願者数／募集定員）、受験倍率（受験者数／募集定員）、合格倍率（受験者数／合格者数）については、「入学者選抜状況」（別添資料4-2-①-2）に示す。

それぞれの入試は、それぞれの入試問題作成委員が丹念に検討して問題を作成しており、過去の入試問題については問題集（別冊資料F1、F2、F3）を作成して公表している。

#### 【分析結果とその根拠理由】

現在、上述のとおり「一般入学試験」と「特別選抜試験」を採用してきている。「入学者選抜状況」（別添資料4-2-①-2）に見られる各年度の受験者の動向や、資料4-Aに示す退学者の少なさ、資料4-Bに示す卒業時満足度調査での各学科のカリキュラムに対する満足度などから総合的に判断して、求める学生像に沿った妥当な学生受入れ方法を採用しており、実質的に機能してきているといえる。

#### 資料4-A 過去3年間の退学状況

年 度	英語英文学科	国際文化学科	食物栄養学科	生活デザイン学科	合計（％）
平成18年度	4	1	2	6	13(2.54)
平成19年度	0	1	0	4	5(0.94)
平成20年度	0	2	1	1	4(0.75)

合計の欄の（ ）内数字は在学者に対する割合（％）

（出典 学生異動関係書類）

#### 資料4-B 平成20年度卒業時満足度調査の満足的意見と不満足的意見の割合（％）

質 問 項 目	英語英文学科		国際文化学科		食物栄養学科		生活デザイン学科	
	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足
教養教育のカリキュラム	73.4	6.3	83.1	0.0	68.7	6.0	69.9	3.2
専門教育のカリキュラム	65.6	9.4	82.8	1.4	76.2	4.5	68.3	12.7
視聴覚設備	76.2	3.2	75.3	2.9	73.5	1.5	58.7	7.9

（出典：平成20年度卒業時満足度調査）

**観点 4-2-②：** 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）において、留学生、社会人の受入等に関する基本方針を示している場合には、これに応じた適切な対応が講じられているか。

**【観点に係る状況】**

社会人、留学生に対するアドミッション・ポリシーは『募集要項』（別冊資料B）19、23 頁にそれぞれ示されており、それぞれに出願資格を定めて募集が行なわれている。

入試については、いずれも『募集要項』に選抜方法が明記され、それらは上記本学のホームページにも掲載されている。前掲の「入学者選抜状況」（別添資料4-2-①-2）に記載されているように、ここ5年間で社会人は34名が受験し、14名が入学している。また、留学生は2名が受験し、1名が入学している。

**【分析結果とその根拠理由】**

社会人で入学した学生は、年齢的にもリーダー的存在となり、勉学意欲も旺盛であることから、他の学生に対して模範となり、学位授与式には毎年表彰を受けている。社会人の受入れは、他の一般学生の勉学姿勢などに好影響を与えており、この点での社会人受入れの効果は大きい。

また、留学生は最近5年間に1名しか入学していないが、勉学意欲は旺盛であり極めて優秀である。他の学生に対しても異文化交流・体験の機会を提供しており、留学生受入れの所期の目的を達成している。

また、正規の留学生とは別に、姉妹校であるサウスダコタ州のブラックヒルズ州立大学からは毎年数名の学生が、短期間本学を訪問し授業の中で本学学生と交流している。

また、地域貢献を促進するためにも、社会人の受入れを一層積極的に進めたいと考えており、正規の社会人入学生とは別に、オープンカレッジ（特別課程聴講生制度）による社会人の受入れについて検討を始めている。

**観点 4-2-③：** 実際の入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

**【観点に係る状況】**

本学の入学者選抜は、「AO入試」は、「平成21年度AO入学試験業務要領」（別添資料4-2-③-1）「推薦入試」は、「平成21年度推薦入学試験業務要領」（別添資料4-2-③-2）に則り、「一般入試」は、「平成21年度一般入学試験業務要領」（別添資料4-2-③-3）に則って行われている。

入試業務は入試委員会が全ての入試業務を統括するが（別添資料4-2-③-4：入試委員会規程）、その入試委員は、学長、学生部長、附属図書館長、各学科長、及び事務局長の計8名で構成されている。

問題作成は、入試委員会が選出して学長が委嘱した問題作成委員が「一般入試」の国語・英語・数学などの入試問題、「推薦入試」「社会人特別選抜」の小論文課題を作成する。入試問題の作成と取り扱いについては、入学試験問題作題及び入学試験問題取り扱い要領（別添資料4-2-③-5）に従って行っている。

入試当日の運営は本学の全教職員で行われる。入試前に全教職員による全体会議を開いて、入試業務要領を確認し、入試が万全・円滑に実施できるよう努めている。

採点は、受験生の氏名等を伏せた状態で行い、採点結果を集計し、合否判定資料を作成している。データ受け渡しも業務要領に従って行い、データの漏洩防止を図っている。

合否の判定は、各学科が合否の原案を作成したものを、入試委員会が審議検討して全学の合否判定案を決定して教授会に提案し、教授会が最終決定している。合格発表は、合格者の受験番号のみを本学の掲示板に掲示するとともに、本学のホームページでも合格者の受験番号を掲載している。合格者本人には郵便で合格通知を発送し

ている。

受験者は、個人別成績開示請求書（別添資料4-2-③-6）により、自分の総合点及び順位を知ることができる。

#### 【分析結果とその根拠理由】

上記のように本学の入学者選抜は、入試委員会の統括のもと組織的な実施体制で行われており、個人的な恣意や過失が入る余地がないように行われている。さらに具体的な実施体制は、上記「AO入試業務要領」「推薦入試業務要領」「一般入試業務要領」で定められているきめ細かなマニュアルに則って行われ、ミスや過失の発生を防止している。また、合否の判定も、学科会議から入試委員会での審議を経て、教授会で判定するという三段階の審議を経て決定している。

**観点4-2-④：** 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。

#### 【観点に係る状況】

本学では、年度当初に入試委員会で入学者受入れ状況を確認し、観点4-2-①で述べた「入学者選抜状況」（別添資料4-2-①-2）により教授会に報告している。各学科では各試験による受入れ学生の入学後の取得単位数、成績、資格取得等について追跡調査を実施し、アドミッション・ポリシーに沿った学生が受入れられているかを検証して、次年度の各入試での選抜方法の改善に役立っている。また、高校の進路担当者と、情報交換して次年度の選抜方法の検討に生かしている。例えば、平成18年度に行ったアンケート（別添資料4-2-④-1）結果をもとに、平成20年度から新たにセンター試験を導入した。

#### 【分析結果とその根拠理由】

本学では、入試委員会を中心に学生受入れについての議論が重ねられ、それに基づく改善も行なわれてきている。また学科ごとに、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れが行われているかどうかを検討している。入試委員会と各学科での検証によって、細かい改善・改良が進められてきたが、平成20年度からセンター試験を導入したので、それに伴う評価や改善点に関して、全学的に検討を重ねていくことになっている。

**観点4-3-①：** 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

#### 【観点に係る状況】

本学の入学定員は、全体で230名であるが、観点4-2-①で述べた「入学者選抜状況」（別添資料4-2-①-2）に示すとおり、毎年1割程度上回る学生を受け入れている。この人数は、講義はもちろん、実験や実習、実技、情報演習など教育上の支障にならない枠内で、学内で合意している人数である。一般入試の合格発表に際しては、入学辞退者数をできる限り正確に予想するために、過去の定着率などを参考にして合格者数を決めてい

る。そして当初の合格者数を絞って決定しているが、辞退者が多い場合は、追加合格を出して学内合意の人数までを確保している。そのため教育に支障が出るような入学者を受け入れるという事態は起っていない。他方で定員割れも、過去5年間はもちろんのことこれまでに一度も起きていない。

#### 【分析結果とその根拠理由】

「入学者選抜状況」(別添資料4-2-①-2)にみるように、ここ5年間に定員を大幅に超えたり、あるいは下回る状況にはなっていない。各学科において、受験者の入試成績、高校成績、定着率のデータを蓄積しており、その分析から適正な入学者数を維持している。また、入試方法についても受験生の動向を分析し、改善してきており、入学定員と実入学者数との関係は適正化が十分図られているといえる。

### (2) 優れた点及び改善を要する点

#### 【優れた点】

本学では、一定の志願者倍率及び受験者倍率が維持されており、アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れているといえる。

本学独自の一般入試をはじめ、「センター入試」「推薦入試」「AO入試」等多様な入学者選抜方法を実施して、受験生の学力だけでなく、やる気や技能、経験など多様な能力を知り、学科への適合性を見出している。こうした選考方法のよさが、中途退学者が殆どいないという点にも表れていると思われる。

#### 【改善を要する点】

本学が求める学生像や選抜方針については、従来も『大学案内』『学生募集要項』及びホームページ等に記載し公表してきた。平成19年度からは各学科のアドミッション・ポリシーをより明確にした案内や募集要項を作成したが、平成20年度に学科の目的を学則に定めたことから、今後は、これを基にさらに明確なアドミッション・ポリシーを定めて公表していきたいと考えている。

### (3) 基準4の自己評価の概要

本学では、本学の教育目的に対応したアドミッション・ポリシーを定めて、『大学案内』や本学ホームページ(<http://www.gifu-cwc.ac.jp/nyushi/2lgaiyou.htm>)に掲載している。また、本学の『募集要項』にも、学科ごとのアドミッション・ポリシーに沿った選抜方法が記載されている。

入学者選抜は、公正・適正に行われており、受験者数も減少しつつあるとはいえ、それなりの受験倍率を維持しており、アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れることが可能となっている。またAO入試と推薦入試制度によって、学科に則した技能をもつ者、やる気のある学生などを受け入れており、多様な学生によって学内の活性化も図られている。

本学では入試委員会を中心にして、毎年入学者選抜の方法の見直しを検討し実施してきた。そして平成20年度からは全学科において大学入試センター試験を導入し、受験生の受験機会をさらに増やすとともに、学力試験だけでなく、特に語学力や意欲を見るため、平成20年度に英語英文学科で、平成22年度からは国際文化学科でそれぞれAO入試を導入している。いずれもこれまで以上に、学科に適した能力を持つ学生を受け入れるための方

策であり、改善策のひとつとして評価できると考えている。